



印刷部数 107,300部 発行人・編集人 吉川 豊

東京土建一般労働組合  
東京都新宿区北新宿1-8-16  
電話03 (5332) 3971 (代表)  
FAX03 (5332) 3972  
ホームページ  
http://www.tokyo-doken.or.jp/



定価 五十円  
(年間購読料 千八百円)  
購読料は組合費のなかに含まれています

### 支部定期大会 特集 号

すべての支部で4年ぶりに通常の形で大会が開かれ、分科会でも活発な討議が行なわれました。36支部の新年度方針、新四役人事などについて、ぜひご覧ください。

(関連記事3〜7面)

# 組織をつくる春の拡大月間 会話弾む対面の春

## 多摩西部 85人の加入で最高のスタート 仲間へ寄り添う月間に

仲間をふやす取り組み、春の拡大月間(4〜5月)が各支部で取り組まれています。直に顔を合わせる行動が戻るなかで、組合員との対話が進んでいます。

4月16日に行なわれた支部大会終了後の出陣式で、多摩西部支部の春の拡大は始まりました。

4年ぶりの対面開催ということで、参加した約130人の仲間たちはマスクをしながらも笑顔を見せ、明るく会話を弾ませていました。

「年間拡大目指して、全群あげて、頑張るぞ、プラボー!!」(砂川分会)、「2年連続 脱退防止 No.1!!」(昭島中央分会)、「各月間を通して、新たな役員をみつけよう!!」(拜東一分会)など、各分会からは年間スローガンに向かって力強い決意表明があり、若い仲間からの元気な発言も目立ちました。



持ち寄り13人でいち早く目標を超過達成した高松分会の皆さんと駄原成行分会長(右から4人目)

月間中の行動について、「行動量をコロナ禍前に戻して仲間と直接対話ができる訪問行動、参加者を集めるための声かけ」(高松分会)と、

先頭に後継者対策部員4人が集まり、未選出分会の若い仲間5人を訪問しました。

### 後継者対策部員先頭に行動 同じ世代に声かけ

文京

【文京・書記・来栖紳介】春の拡大月間のなかで、後継者対策部による後継者世代への夜間訪問行動に取り組みんでいます。4月20日の行動日には、全分会での部長選出に向けて、横田亮一部長を

この日の話題は6月3日の豊島支部との合同企画「若手交流会(ドローン活用セミナー)」と6月18日の「潮干狩りバスレク」。はつり工の仲間からは「ドローン活用、気になった。面白そうな企画なので、予定を調整してみよう」と好感を得ました。

最後に訪問した造園の仲間「一地方の現場が多く、明日も箱根まで行かねばならない。税金も高く、休みなしで働かないと生活が苦しい」と切実な声。「賃金アンケート

【文京・書記】春の拡大月間のなかで、後継者対策部による後継者世代への夜間訪問行動に取り組みんでいます。4月20日の行動日には、全分会での部長選出に向けて、横田亮一部長を

この日の話題は6月3日の豊島支部との合同企画「若手交流会(ドローン活用セミナー)」と6月18日の「潮干狩りバスレク」。はつり工の仲間からは「ドローン活用、気になった。面白そうな企画なので、予定を調整してみよう」と好感を得ました。

最後に訪問した造園の仲間「一地方の現場が多く、明日も箱根まで行かねばならない。税金も高く、休みなしで働かないと生活が苦しい」と切実な声。「賃金アンケート

## 60万人署名で「保険証の存続」を

### 社会保障対策部長 塩野 操

政府はマイナンバーカードと保険証の一体化の中で、2024年秋から保険証交付の廃止の方針を掲げました。これは、本来任意のマイナンバーカード取得の「実質義務化」を自論するものです。私たちが目指すのは、保険証交付廃止はこうした保険者機能の低下を招くものです。また、「マイナ保険証」で利便性は向上

東京土建は、土建国保を守るために、全国の仲間と「健康保険証廃止撤回を求める60万人署名」を組織する全国建設労働者を組織する全国建設労働



第五分会の佐藤郷志さん(左)

新たな仲間をふやすため  
春の拡大月間  
分会センターに集まる  
組織部

5月より組織数の2倍を目標に取り組みます。多くの仲間・家族に「60万人署名」を広げましょう。

労働組合総連合(全建総連)が呼びかけるもので、このよう呼ばれるのは、実に21年ぶりとなります。保険証の廃止は組合の存亡にも関わります。

「この意味の重さをわかってほしい」と強調、権利を放棄せず、反戦を表明し続けようと呼びかけた。

■先日行なわれた衆参5つの補欠選挙の結果は、与党の4勝。先行き不透明ながら、解散・総選挙の時期はそう遠くはないだろう。日本の平和と発展のためには、真に女性が活躍できる社会の実現と、女性の意見がもっと反映される社会、組織作りが必要だ。

「平和を求め軍拡を許さない」として「女性たち」が会を発足させた。今年1月のことだ。中心メンバーは上野千鶴子東京大学名誉教授や田中優子法政大学前総長などで、2月には岸田首相や与野党の代表、連合会長宛ての7万4千筆の署名を集め、早速、議員会館で手渡した。

■その立ち上げの理由の一つとして語られたのが、コロナ禍で困窮する女性や若者への支援を求め、「社会保障費が膨れ上がっている」と一蹴され我慢させられてきたのに、突然、巨額の軍事予算が出現したことへの強い違和感だ。まったくその通りだ。

■そして、もう一つの理由が「戦争になる可能性が迫っている事態を、女性たちが初めて参政権(投票権)をもって迎えている」という事実だ。田中さんは4月の講演のなかで、女性の参政権が認められなかった戦前との違いに着目し「この意味の重さをわかってほしい」と強調、権利を放棄せず、反戦を表明し続けようと呼びかけた。

「朝やけ」  
「平和を求め軍拡を許さない」として「女性たち」が会を発足させた。今年1月のことだ。中心メンバーは上野千鶴子東京大学名誉教授や田中優子法政大